

“買える”選択→“変える”未来

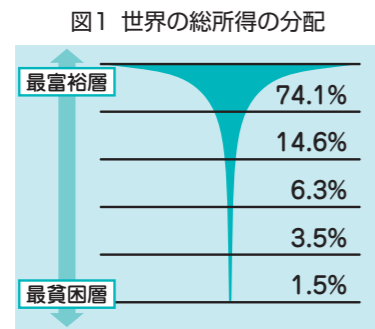
～フェアトレードタウン名古屋～

不均衡な世界で

最近、海外の高級有名服ブランドが、売れ残った自社商品を大量に焼却処分していたというニュースが注目されました。売れ残り在庫が安価で市場に出回り、自社ブランドの価値が下がることを避けるため、というのが焼却の理由でした。

一方、国連開発計画(UNDP)によると、1日あたり1ドル25セント未満で暮らし、十分な食料やきれいな飲み水、衛生施設を利用できない人々が全世界で8億人以上いるそうです。

“シャンパンガラスの世界”という言葉が聞いたことがあるでしょうか。これは、世界の総所得がどのように人々に分配されているのかを示した図です(図1)。



世界の人口を所得で5分割したとき、最富裕層が世界の総所得の74.1%を分け合っているのに対し、最貧困層は、たった1.5%を分け合っているに過ぎない、まるでシャンパンガラスのような形になるのがわかります。このように、私たちの世界は「不均衡に」成り立っているのです。

この「不均衡」を補うため、途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、**立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみを「フェアトレード」(公正な貿易)と言います。**^{※1}

コットンが迎えるルート

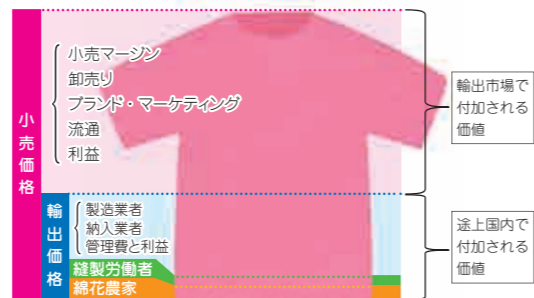
バリエーション豊かで流行の変化に敏感に対応できる「ファスト・ファッション^{※2}」は、その手頃な価格から、若い世代に人気です。コットン製のシャツのタグを見ても、「Made in India(インド製)」などの情報が見られています。このシャツは、いったいどんなルートで日本に流れてきているのでしょうか。

綿花栽培は世界中に広がっていますが、なかでもイ

ンドは世界一のコットン耕地面積を持ちます。一般的に生産者の立場は弱く、インドの6歳から14歳までの約45万人の子どもが綿花栽培に従事し、受粉作業、除草、収穫などを行っています。家族の収入を支えるため、学校にも通えず働く子ども達。大量の農薬使用によって、病気になる子もいます。このようにして生産された綿花に、途上国内と輸出市場でそれぞれ価値が付加され、私たち消費者のもとへと届くのです。例えば、ヨーロッパで30ユーロ(1ユーロ129円換算=日本円で3,870円)で売られている一般的な衣類の供給において、綿花生産者の労働賃金の総計は、約90セント(日本円で116円)。これは消費者が払ったうちの約3%に過ぎません。^{※3}



図2 一般的な綿衣料品の製造過程における価値の付加



参考：これでわかるフェアトレードハンドブック世界を幸せにするしくみ(合同出版(株))

この現実を知ったうえで、もう一度、コットンシャツを手にとってみたとき、そのシャツの重みをあなたはどのように感じるでしょうか。例えば、コットン製品ひとつでも、「オーガニックコットン^{※4}」の表記のあるものを選ぶことで、あなたもフェアトレードに参加することができます。

ものを「買える」自分が、世界を「変える」ことができる一買い物をするときに、「この製品はどこから来て、どのような工程をたどって自分のもとにやってきたのか」、少し、思いを巡らせてみませんか。

次の頁からは、行政・企業・学生それぞれのフェアトレードの取り組みについてご紹介します。

行政の取り組み

名古屋市は、平成27年9月に、熊本市に続いて日本で2番目の「フェアトレードタウン」^{※1}に認定されました。フェアトレードタウンになったことで、名古屋はどう変わっていくのでしょうか。名古屋市環境局にお話を伺いました。



みんなでやろみゃあ！
これが名古屋のフェアトレード



名古屋市環境局環境企画部環境企画課 主査 毛利 崇さん

フェアトレードタウン認定までの道のり

名古屋市では、市民団体による活発な働きかけが原動力となり、フェアトレードタウン認定に繋がりました。名古屋には4つのフェアトレード団体がありましたが、平成25年に名古屋のフェアトレードタウン化を目指して団結し、「フェアトレード名古屋ネットワーク」が立ち上がりました。フェアトレードタウン(以下「FTタウン」)の認定を受けるには、日本では6要件^{※2}を満たさなければなりません(発祥地の英国では5要件^{※3})。「地産地消」や、国内でもフェアな取引をする「国内フェアトレード」という「地域活性化への貢献」の観点も盛り込んでいるのが日本のFTタウン基準の特色です。

また、認定要件には「自治体によるフェアトレードの支持と普及」というものがあります。一元代表制を採用する国では、首長が支持するだけで良いのですが、日本の地方自治体は二元代表制。首長と議会側双方の支持が必要で、名古屋市では議会の決議、市長の支持表明を受けてFTタウンの要件を全て満たし、平成27年9月にFTタウンに認定されました。名古屋市がFTタウン認定されたことは、市民団体の皆さんの熱意と頑張りがあったものだと思います。名古屋の市民活動は本当に活発で、名古屋が誇れることではないかと感じています。

先駆け！名古屋から始まる取り組み事例



▲ファッションショーの様子

毎年9月に久屋大通公園一帯で「環境デーなごや」を開催しています。平成28年からテレビ塔の一角をフェアトレード一色に染めて、ステージでのファッションショーや、市民団体、学生、

企業が出展するマルシェを開催し、来場者がフェアトレードに触れる機会を提供しています。

また、平成28年度から市内の全小学校給食でフェアトレード認証のニカラグア産の白ごまを使用したメニューを提供しています。給食前に児童たちに農産物の生産・流通について説明し、フェアトレードを知ってもらおうきっかけづくりをしています。



▲児童たちにフェアトレードを説明

そして、PR用に「FTタウンなごや」の応援ロゴマーク(上部)を作りました。応援ロゴマークを様々な機会に使って頂くことで、フェアトレードの認知度を上げていきたいと思っています。

庁舎開放日である11月の文化の日には、市役所の屋上と正面玄関前でフェアトレード・コーヒーガーデンを開催しています。屋上で名古屋城を眺めながらフェアトレードコーヒーを飲むのが好評でした。今年も実施の予定ですのでぜひお越しください。

まずは、知ってもらうこと。

名古屋市では市民団体・学生等と協働し、各種イベントでフェアトレードの理念の普及をすすめています。大型スーパーでもフェアトレード商品が買えるようになってきてはいますが、アンケートを取ると「内容を理解している」方が3割、「言葉を聞いたことがある」方が2割。そして「聞いたことがない」方が残りの5割。市民の皆さんの認知度を、もう一段階引き上げていきたいですね。

環境・貧困・人権・平和・開発など、地球規模の課題解決に貢献するフェアトレードについて、まずは一人でも多くの方に知ってもらうことが大事だと考えています。そのうえでフェアトレード商品が皆さんの買い物の選択肢の一つとなれば嬉しいです。

※1 参考：特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン [Web](http://www.fairtrade-jp.org/) http://www.fairtrade-jp.org/

※2 ファッション・ビジネスにおける生産・流通・小売りの形態のひとつで、ファスト・フードのように「早く・安い」を特徴とするファッション。(参考：Webマガジン「artscape」 [Web](http://artscape.jp/) http://artscape.jp/)

※3 参考：「これでわかるフェアトレードハンドブック 世界を幸せにするしくみ」合同出版(株)

※4 全製造工程を通じて、オーガニック原料のトレーサビリティと含有率がしっかりと確保され、化学薬品の使用による健康や環境的負荷を最小限に抑え、労働の安全や児童労働など社会的規範を守って製造したコットン製品。(参考：NPO法人日本オーガニックコットン協会 [Web](http://joca.gr.jp/) http://joca.gr.jp/)

※1 行政、企業、商店、市民団体が一体となってフェアトレードの理念を支持し、運動の輪を広げるために取り組んでいる都市(参考：名古屋市ウェブサイト(右のQRコード))。2018年1月現在、世界では2,000以上の都市が認定されている。
 ※2 ①推進組織の設立と支持層の拡大②運動の展開と市民の啓発③地域社会への浸透④地域活性化への貢献⑤地域の店(商業施設)によるフェアトレード商品の幅広い提供⑥自治体によるフェアトレードの支持と普及(出典：同上)
 ※3 ①地域の政治、②経済、③社会の3つのセクターすべてによるコミット④地域住民の関心・理解⑤多様な背景を持つ人からなる推進委員会の組織(出典：「フェアトレードタウン」誰も置き去りにしない「公正と共生のまちづくり」新評論)

